いちはら No. 73

国際交流協会ニュース

－Ichihara International Association－

2019年11月26日　発行　市原市国際交流協会
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所　人権・国際課内
TEL 0436-23-9826　FAX 0436-21-0332　e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp
ホームページアドレス　https://iia-ichihara.org/

姉妹都市モビールでアザレア娘の歓迎を受ける

パプアニューギニア
シンシンで着飾った女性達

- 2019年度姉妹都市モビール青少年訪問団
- 善意通訳セミナーを開催
- インターナショナルフレンドシップクラブ
- 国際スポーツ交流2019少年の翼（公財）市原市体育協会
- I.I.A.レポート
  - サマースクール
  - 辰巳台日本語教室を開設
  - 上総いちはら国府祭りに参加
  - もっと知りたい？よその国「パプアニューギニア」

少年の翼　台湾中正記念堂にて

上総いちはら国府まつり

受け継がれる交流の輪

2019年度姉妹都市モビール青少年訪問団派遣

市原市と米国アラバマ州モビール市は、姉妹都市交流の一環として派遣と受け入れ事業を隔年で実施しています。今年度は派遣の年で、公募の結果市内在住の中・高生10名が選抜されました。研修を経て、7月21日～31日の間、引率者2名と共にモビール市を訪問、ホームステイをしながら様々な体験をしました。

7月21日　出発

7月21日　アザレア娘の歓迎

7月23日　モビール市長表敬訪問

7月24日　ドーフィン島海洋研究所

7月24日　ドーフィン島ビーチにて

7月26日　文化交流会

7月26日　南アラバマ大にて

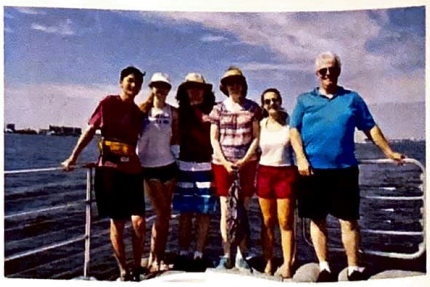
7月29日　さよならパーティ

7月29日　さよならパーティ

「英会話能力の向上を図りたい」

長生高校1年　山本　将暉

私は今回の派遣事業を通し、大きく3つのことを学びました。1つは、コミュニケーションです。ファミリーの方とお話しする時も、難しい状況の中で話題を作ったり、会話を発展させるのに苦労しました。よって、初対面の方とでも会話が弾むようなコミュニケーション能力が大切だと改めて実感しました。2つめは、前の内容と関係するところもありますが、国際化に伴う英語力の必要性です。私の英語が伝わらなく、会話が続かないということが多くありました。これから国際化が進むなか、例えば仕事で外国を訪れる際、英語が上手く伝わらなければ、仕事にもなりません。従って必要最低限の英語力を身につけるべきだと感じました。3つめは、諸外国について知識を得ることです。私は、今回の派遣で初めて教会に足を踏み入れました。私にとっては未知の世界ですので、とても楽しい時間でした。ですが、もしも事前知識があれば、見方が大きく異なっていたかもしれません。また、その国のマナー等を知ることで、相手に失礼のない態度をとれたり、生活に溶け込みやすくなれると思います。以上が、私が今回の派遣で感じたことです。この経験は、私にとって非常に意義のあるものになりました。この事は、必ず私自身のものにしたいです。



善意通訳セミナーを開催

姉妹都市部会

姉妹都市部会では、恒例の善意通訳セミナー（座学9/8、実地研修9/29、全2日間）を、20名余の参加者のもと今年も開催いたしました。

講師は前回と同様に、全国通訳案内士（英語）の古内洋一先生にお願いし、基礎的構文から実際の見学場所のガイドまで幅広くご指導していただきました。

先ず1日目の座学では、通訳する上で「日本人が苦手な8つの構文」として、[that節]・[現在完了]・[不定詞の形容詞的用法]・[関係代名詞]・他を講義して頂きました。

その間にネイティブの発音についても触れていただき、例えば「L・N・D・Tについては母音が無い時は発音しない」や「want to ～ は、wanna ～ と発音する」など実例をタイムリーに紹介していただきました。

2日目の実地研修は、今回は「浅草寺」と「明治神宮」で行いました。事前に両所に関する詳細な説明資料（日本文と英文）を古内先生が準備して下さったお陰で、我々日本人も知らない「歴史」、「いわれ」を細かく知ることができ、また神社では最初に行う「手水作法」等も正式な型で実体験でき、本当に勉強になりました。

やはり他人をガイドするためには、「物事をきちんと、また幅広く知っていないとダメだ」と痛感した次第です。

インターナショナルフレンドシップクラブ

交流部会

IFC（インターナショナルフレンドシップクラブ）は、在住外国人を主体にして出身地域や言語を同じくする人たちが話をしたり、活動を通して友達作りが出来れば知らない土地で寂しい思いをすることもないし、これからの活動にも新たな意見が反映できるのではと企画しました。当初は、何人かの中心になる人に話をして「それ、いいんじゃない」と賛同して貰いましたが、何をどうするかはっきりしたものが無いので、とりあえず参加者を在住外国人のみとして、第1回のミーティングを9月8日youホールで開催しました。参加者は、中国出身の中学生2名と保護者、インドネシア3名、ペルー2名、韓国1名、代表者のマレーシア1名に関係者3名の14名でした。

席上「音楽を聞きながら何かしたい」とか、インドネシアの人は「日本人によく質問されるのでイスラムのラマダンについて話してもいいです」とか、中国人の中学生は「私、北京オペラ（京劇）を習っていたんです」と、様々な話が出て、12月の国際交流ひろばで北京オペラを披露してもらう事になりました。また、ラマダンについても次年度早々に企画しようと検討中です。会は不定期ですが興味のある在住外国人の方はお問い合わせ下さい。

国際スポーツ交流　2019少年の翼

(公財)市原市体育協会　姉崎MBC　中西　俊瑛

今回の台湾遠征では、台湾チームの高さとパワーにスピードとディフェンス力で対抗する。どんなことにもあきらめず最後まで走り続け、全力でプレーすることを目標に練習に励み頑張りました。しかし僕が思っていた以上に台湾の選手たちの身長や身体能力が高く驚きました。相手の身長が高いのでシュートをブロックされてしまったりパスが思うようにつながらなかったりと今まで経験した事がなかったので苦戦しました。しかし監督やコーチの「積極的に頑張ろう！」という励ましの声で僕は、大きい相手にディフェンスをしっかりやろうと思いました。なかなか取れないリバウンドも頑張ってスクリーンアウトしたことで取れた時は、とてもうれしかったです。今回の試合での反省を生かし、さらに上手くなれるよう練習していきたいです。

3日目の試合後に台湾選手たちと交流昼食会を行いました。その昼食会では、一緒のテーブルで美味しいご飯を食べたり、ダンスを踊ったりして交流を深めました。言葉は、通じなかったけど、ジェスチャーなどを使いコミュニケーションを取り楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今回の少年の翼で経験したことは僕にとって一生の思い出になりました。また、僕たちの事を支えてくれた、先生方や監督、トレーナーの皆さん、家族、すべての人に感謝しています。ありがとうございました。

I.I.A.レポート
活動報告
2019年7～10月

サマースクール

(7/16)

7月16日Youホールで第9回サマースクールが開催された。市内在住の外国人小・中学生のためにIIAが毎年この時期に協会会員、教職関係者、ボランティア団体の協力を得て開いている。

今年は、学習者24名とボランティア25名が参加した。

午前は、夏休みの宿題、教科の復習、日本語の勉強を中心に学習。昼食は、協会会員特製のカレーライス。午後は体験学習で、三井化学ふしぎ探検隊（7名）のご協力を得て熱収縮するプラスチック板に各自思い思いのイラストを描いて世界に一つだけの自分のキーホルダーを製作。

初めて会ったお友達に恥ずかしがっていた子供達もすっかり打ち解け、思い出多き楽しい夏休みの一日を過ごした。

辰巳台日本語教室を開設

■日本語教室部会

今年4月、日本語教室部会に新たに辰巳台教室が辰巳公民館に誕生しました。

そもそもの発端は2017年の春に遡ります。当時、八幡（水曜夜）教室に来ていたインドネシア人実習生のRさん、ある日真剣な顔で話してきた。「三井造船には日本語を勉強したい研修生が沢山います」と。この声を受けた松永会員が辰巳台地区に日本語教室の開設を模索。以来2年間、場所の確保や協力者を募る等の苦労を重ねてきた結果新教室の開設にこぎつけました。改めて皆様のご支援をお願いします。

上総いちはら国府祭り

(10/6)

今年もオフィシャルブースを出展。場所については選ぶことができないので「できるだけ人の流れのある場所を」と願っていましたが残念ながらステージ側でした。協会の活動紹介・姉妹都市の紹介・後期のイベント情報のチラシと粗品を配布。チャリティとしてユニセフ募金の為、釣り堀ゲームを行った。当初はそれほどの動きもなかったが、後半子どもに交じって大人も参加、会話も弾み思った以上の反応。用意した景品・配布物も残らず。今年から終了を午後8時とする厳しい指導があり早終いは出来なかったが最後に皆で見上げた花火はすばらしく、長い1日も達成感がありしみじみ平和を感じた。尚、ユニセフ募金にご協力頂きありがとうございました。

もっと知りたい？よその国「パプアニューギニア」

■交流部会

7月14日（日）youホールにて、2016年から2年間海外青年協力隊員としてパプアニューギニアに滞在された市内在住の杉原康彦さんにお話しを伺った。パプアニューギニアは1975年に独立した新しい国、国土は日本の1.4倍だが人口は約700万人しかいない。お話は驚きの連続。部族戦争が起きるという理由で都市間の道路が無いこと。長距離の移動は全て飛行機。所がその飛行機はいつ飛ぶか分からない、飛行場に電気が無い、滑走路は舗装されていないので乗るのがとても怖い。

電気事情は非常に悪く始終停電、電圧が安定せず、変圧器を持っていなかったため持参したパソコンも直ぐに壊れてしまった。

教育は8-4-4制だが、小学校から高等学校に進む時に国家進級試験があるが合格率は10％。しかもその試験は1/2+1/3が計算できれば合格するレベル。卒業することが凄く、落第は当たり前で19歳の小学生もいる。視力は皆4.0、動体視力も素晴らしく、野球もバットに当てるのが上手。奇麗好きで掃除が大好きだが実施するのは女性だけ。ブッシュナイフという小刀を全員が持っている（草刈に便利）。教室は茅葺屋根、床は砂、温度は38度C。上水はあるが常に塩素を入れて使用。赴任に当たっては13種類の予防注射を打って行った。危険なためJICAでは女性の派遣は禁止されている。蝙蝠は高級食材。等々枚挙に暇が無い。

それでも食材を蒸し焼きにする伝統料理「ムームー」や豪華な羽飾り「シンシン」などが紹介され、杉原さんも折り紙の紹介や日本語教室の開催の他カレーやコロッケ等の日本料理をふるまい絶賛された話、５年に一度の選挙がまるでお祭りといった楽しい話が続き懇談タイムも質問の連続であった。